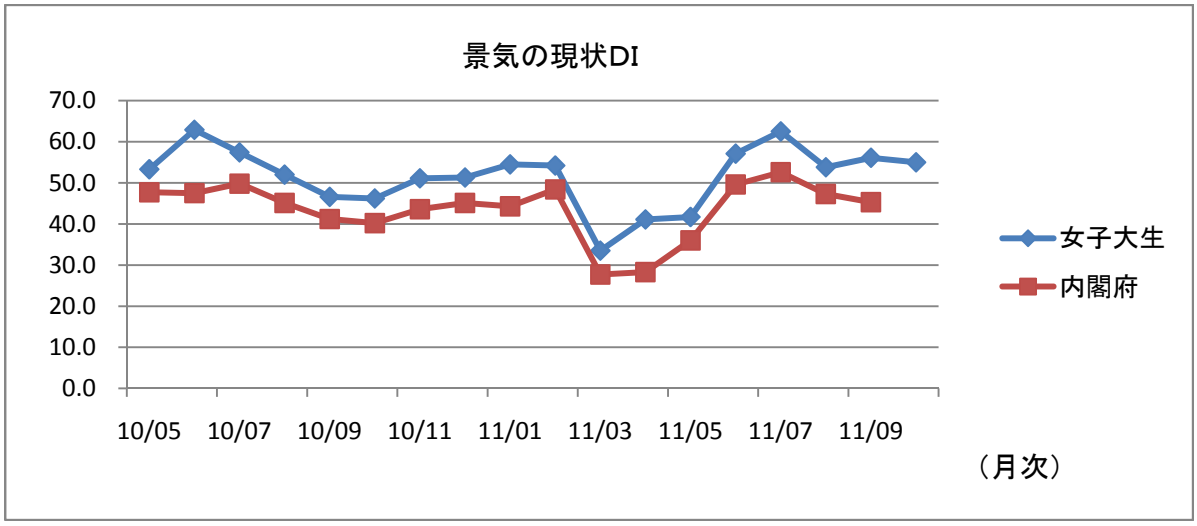
10月のDI、現状、先行きとも低下

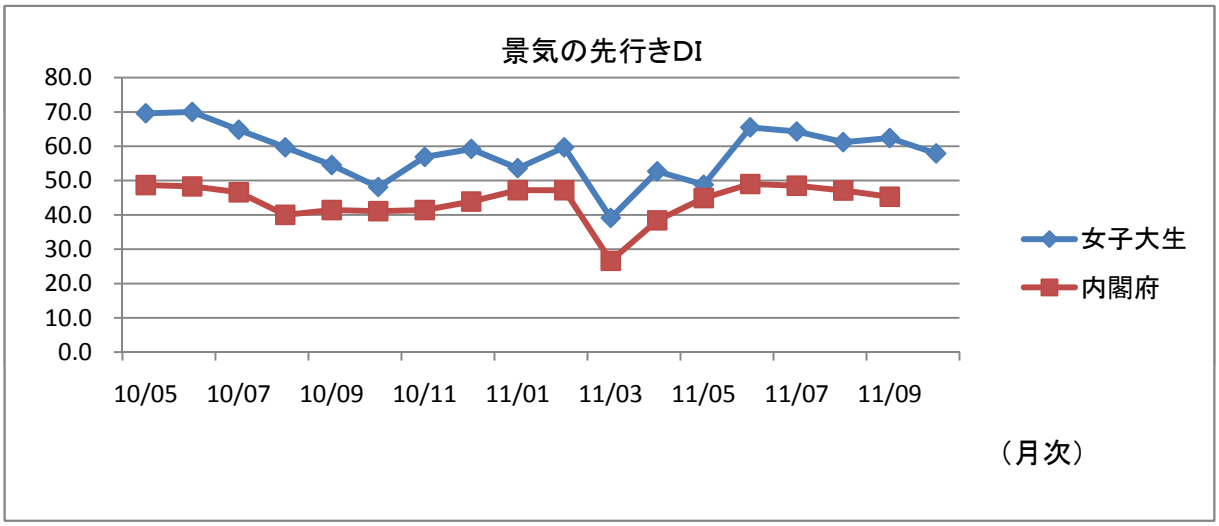
10月の女子大生景気ウオッチャー調査は、景気の現状判断ＤＩが55.0となり、２ヵ月ぶりに低下した。先行きＤＩも前月比で4.5ポイント低下し、57.9となった。

ミスタードーナッツの50円セールは不景気の象徴としてとらえられていた。アパレルのアルバイトをしている学生からは、前年の売り上げをなかなか達成できないという声があった。ダイエーの木曜の市は、少し前まで混んでいたが、最近は空いているということだ。

ただ、ディズニーランドのホテルの稼働率は100％を回復するなど、景気の回復を指摘する声もあった。（跡見学園女子大学マネジメント学部教授　山澤成康）

調査日＝10月25日、調査人数＝大学3，4年生20人。





景気判断DIは、①良い1点②やや良い0.75点③どちらともいえない0.5点④やや悪い0.25点⑤悪い0点として、それぞれの構成比を乗じて計算する。全員が良いと答えた場合は100、全員が悪いと答えたの場合は0となる。